

第19回

# グローバル感染症研究セミナー



2023年11月9日  
16:30-17:30

参加登録はこちら

<https://forms.gle/iEwFYQyVZfSz6MG76>



**演者：森田 鉄兵 先生**

慶応義塾大学先端生命科学研究所 特任准教授

ハイブリッド開催（Zoom、臨床研究棟2F テレカンファレンスルーム）

## 細菌RNA制御の分子機構と病原性発揮における役割

環境に応じた遺伝子発現の調節は、転写や翻訳の各段階に仕組まれた制御機構により起こる。転写開始以降の制御（転写後制御）には機能性RNAやRNA結合タンパク質が主に関与し、近年では、細菌の病原性発揮を司る機能性RNAが多数報告されている。しかし、多くの場合、協働するRNA結合タンパク質や制御の分子機構は不明である。

細菌における主要な機能性RNAはsmall RNA (sRNA) であり、標的mRNAとの塩基対形成により翻訳や安定性を調節する。最近、我々は、sRNAの合成を司るRNA結合タンパク質CspDを新規に同定し、さらに、CspDが、リボスイッチなどmRNAの5'非翻訳領域に配置された転写伸長／終結の切替え制御を破綻させることを明らかにした。本セミナーでは、病原性発揮に関与するRNA制御を概説した上で、腸管出血性大腸菌（EHEC）を一例として、CspD研究の病原性細菌への展開について紹介したい。

世話人 三好 智博（グローバル感染症研究センター 講師）

セミナー問合せ先

大分大学グローバル感染症研究センター共同利用・共同研究係（5444）  
TEL 097（586）5444 E-mail [glocal@oita-u.ac.jp](mailto:glocal@oita-u.ac.jp)